

4 出席委員

委員長	貳又 聖規	副委員長	森山 秀晃
委員	長谷川 かおり	委員	佐藤 雄大
委員	前田 博之	委員	広地 紀彰

5 説明のために出席した者の職・氏名

教育長	安藤 尚志	学校教育課長	鈴木 徳子 (令和6年3月まで)
生涯学習課長	伊藤 信幸		富川 英孝 (令和6年4月から)
生涯学習課主幹	江草 佳和 (令和6年4月から)	学校教育課主査	鍵井 昭太
生涯学習課主査	葉 廣照美 (令和6年3月まで)	学校教育課指導主幹	小原 健

6 分科会（懇談）への出席者

白老ソフトテニス少年団	事務局	石谷 真希子 様
Shiraoui Football Club	監督	千葉 勝宏 様
		ほか後援会関係者2名
白老緑丘バレーボールクラブ	監督	武田 純一 様
白老町少年野球クラブ	代表・監督	工藤 剛 様
		ほか後援会関係者1名
白老町剣道スポーツ少年団	指導者	杉本 誠力 様
Gen キングしらおいミニバスケットボールスクール		
	指導者	越前 寿 様
地域おこし協力隊	隊員	小箱 駿太 様

7 職務のために出席した者の職・氏名

事務局 局長	本間 力 (令和6年3月まで)	主 幹	小山内 恵
	本間 弘樹 (令和6年4月から)	一般事務職員	白綾 美紀

8 調査結果

本委員会は、小中学校及び地域活動におけるスポーツ振興の現状と課題について、担当課から説明を受け、経過、現状及び課題を把握し、所管事務調査並びに活動団体との懇談を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

(1) 現状と課題、課題解決のための方策（教育委員会報告）

① スポーツ振興を目指す本町の現状と課題

昭和51年、全道で7番目にスポーツ都市宣言をし、これまでスポーツの普及・振興に尽力してきたが、近年のスポーツを取り巻く環境は大きく変化している。現状と課題については次のとおりである。

ア) 人生100年時代における健康意識の高まり

イ) 少子化等の影響による子供の運動機会・スポーツクラブ（少年団）の減少

ウ) 人口減少や高齢化に伴う指導者の減少

エ) 部活動地域移行の担い手確保

オ) スポーツ施設の老朽化と指導体制の不足

その課題解決の方策は次のとおりである。

ア) 令和5年8月にスポーツに関する専門的な知識・経験を持った地域おこし協力隊の導入を行い、小中学校に出向いての専門的な指導や保育園や小学校にてマルチスクールの実施。

イ) 令和5年8月に札幌市を拠点に様々な活動を展開する「総合型地域スポーツクラブ Safilva(サフィルヴァ)」と包括連携協定を締結し、町内関係団体との連携を強化し、スポーツ振興体制を推進するとしている。

② 部活動の地域移行に係る現状と課題（教育委員会報告）

保護者と生徒の視点では、少子化により部活動に加入する生徒数の減少とスポーツへのニーズの多様化がみられており、全体的な活動量も減少している。学校や教職員では、少子化により教員（顧問）の減少に伴い、複数顧問での指導配置ができず、専門外の競技の指導をする精神的な負担が大きいことが課題となっている。

活動量の減少や教員の地域課題の一方で、小学4年生から6年生までの205名を対象とした町教育委員会のアンケート調査では、「中学生になったら部活動をやりたいと思いますか。」との問いに対し136名(66.3%)が「部活動をやりたい」と答えており、部活動への参加意欲は高いと読み取れる。

今後の方向性として、地域移行に向けて、令和5年度から7年度までを改革推進期間と位置づけ、部活動の休日の指導を地域クラブに移行する取組を推進する。

(2) 令和2年の総務文教常任委員会による政策提言「白老町のスポーツ振興について (R2.12.18)」に対する取組状況

教育委員会からの報告では、スポーツ振興計画については未着手であるが、現状は令和3年度策定の白老町社会教育中期計画をもってスポーツ振興計画に代替して取組を実施している。

個別計画の必要性や重要性は認識しており、6年度中に「第3次白老町社会教育中期計画」の見直しを完了し、7年度から個別計画の策定に取り組んでいく予定としている。

(3) 委員会の意見

① 長期ビジョンの策定と自治体マネジメントの向上並びに体制整備

ア) 本町のスポーツ振興のビジョンを明確にし、将来像を達成するため施策ごとの「現状と課題」、課題解決に向けた取組方針、作業行程、重点的に取り組む「具体的な事業内容」を示したスポーツ振興に係る実行計画が必要である。

イ) 毎年度の予算編成の指針となるよう事業の優先度の整理を行い、ハード・ソフト両面からの政策を実現する手だてを具体的にすべきである。

ウ) 全国各地で部活動の地域連携・地域クラブへの移行が進む中で、本町は、周辺自治体と比較しても遅れを取っており、関係者から不安の声が多く出されている。また、地域移行は学校との連携が必須であるが、学校教育課から生涯学習課へ担当が変わったことから、スポーツ振興が健康で暮らせるまちづくりの一環としてだけでなく、スポーツの価値をしっかりと検証し、行政における推進体制を明確にする必要がある。

白老町中学校部活動地域移行推進計画の進捗について、計画は策定されているが具体化されていないことから、令和6年度中に実施計画を策定して早急に取り組むべきである。

エ) 行政経営の視点を持ち、行政評価を活用し、「状況把握－計画－実施－評価－改善」の流れを構築し、進行管理に努めるべきである。

オ) 令和2年に政策提言した「白老町のスポーツ振興 (R2.12.18)」の3つの提言（「提言1：スポーツ振興計画の策定と推進」「提言2：民間活力の導入と財源確保」「提言3：まちづくりとスポーツ振興の連携」）が具体的な施策に反映されていない現状が散見されており、再度、町長をはじめとする町行政において、当政策提言を真摯に受け止め、課題の早期解決に結びつける必要がある。

カ) 体育協会の在り方を整理して今後の方向性を明確にし、サフィルヴァや地域おこし協力隊のそれぞれの担う役割の整合性を図り、費用対効果及び地域性を十分考慮した新たな体制整備が必要である。

② 子供たちがスポーツをできる環境整備

ア) クラブ活動への足の確保として、既存のスクールバスや本年度購入予定の教育支援バス、地域公共交通の活用を含めて検討すべきである。

イ) 総務文教分科会において懇談した白桜バレーボールクラブ、白老町剣道スポーツ少年団をはじめ、町内には団員数が少なく、活動存続の危機にある団体が増加しており、行政と関係機関の協力のもと対策を講じるべきである。

ウ) 白老町少年野球クラブや白老ソフトテニス少年団など町内の体育施設等を練習場所としている団体からは様々な施設整備の要望があり、利用団体の声を聞き、対応を早急に図るべきである。

また、各小中学校のグラウンドについても雑草の繁茂等が散見されることから、環境整備に着手すべきである。

エ) 全道大会や全国大会出場に係る町の補助制度について、しっかりと周知し活用を促進するとともに、対象費用の拡充について検討する必要がある。

③ まとめ

文化・スポーツ等の部活動がなくなったからといって子供たちの可能性の芽を摘まない、少しでも新たな才能を伸ばす、様々な機会に触れる環境を保障するような環境づくりを打ち出す必要がある。前述したビジョンや実行計画を策定し、白老ならではの地域移行について具体性を打ち出し実行すべきである。

このことを踏まえ、青少年の健全育成とスポーツ都市宣言にふさわしいまちづくりを推進するよう提言し、今後、本委員会としても実効性の担保、追跡調査、施策の効果検証を行うこととする。

(4) 総務文教分科会

総務文教分科会は、スポーツ少年団及び地域おこし協力隊との懇談を実施した。なお、その内容については、別紙「活動報告書」のとおりである。

が出ている。ネットの高さやコートが少土が少ない等の問題がある。

- ③ 管理者の管理状況がよくなく、要望してもあまり動いてもらえないため困っている。

【Shiraoui Football Club】

(団員 19名 4月からは13名予定)

・活動状況

4～10月：マザーズさんのご協力をいただき天然芝で練習を行っている。

11～3月：はまなすスポーツセンター等の体育館でほぼ毎日フットサルの練習を行っている。
練習施設に関しては、充実している。

・課題・要望

- ④ 人数が少なく、新6年生でチームを組むことができない。
- ⑤ 中学校にサッカー部がないため、町内でサッカーを続けることができない。続けたい子は苦小牧のクラブチームや北海道コンサドーレ札幌のセレクションを受けてサッカーを続けている。
- ⑥ マルチスクールを通して各団体へつなげるなどの体制ができると、サッカーに限らず部活動がないスポーツも続けられる環境ができるのではないかと。

【白桜バレーボールクラブ】

(団員 小・中学生)

・活動状況

指導者が1人で小学生と中学生、両方のチームを指導し、活動している。

・課題・要望

- ⑦ 子供が少なく、なかなか集まらない。指導者も少ない状況である。
- ⑧ 中体連は参加条件があり、中学校に部がないとクラブチームを立ち上げて参加できないこともある。中学

校の部活動の地域移行は早く進めていくべき。

- ⑨ 白老町は、中学校の部活動の地域移行がかなり遅れていると感じる。他市町では、計画的に地域移行を行い、来年度からは中学校では部活動を行わないところもあると聞いている。
- ⑩ ボールやネット等の練習用具はクラブで購入している。地域移行の際は、費用支援についても考える必要がある。

【白老町少年野球クラブ】

(団員：12名 4月からは5名予定)

・活動状況

夏：4～11月上旬まで年間20回ほど大会に参加

練習はふれあい広場で行っている。

冬：白老・萩野小学校の体育館で各週1回

はまなすスポーツセンターで週2回

・課題・要望

- ⑪ 人数が少なく新年度は単独では大会に参加できないため、錦岡のチームと合同で参加する予定。人数が少ないことで親が大変な部分もあるが、子供たちをよく見ることができるという側面もある。
- ⑫ コーチが2名いたが、団員の保護者のため卒団とともに指導者が減ってしまい現在は1人の状況。
- ⑬ 以前は白翔中学校のナイター設備を利用していたが、2年ほど前から設備が古く利用できなくなったため、練習できるような明るさではないが、ふれあい広場の街灯を利用して練習している。ふれあい広場に照明設備を設置してほしい。
- ⑭ 白老町は横に広く、練習場所によっては送迎が必須となり、保護者の負担が大きい。送迎のシステムをつくってもらえれば、練習に参加しやすくなる。
- ⑮ 中学生になって野球を続けるには、苫小牧の硬式野球チームか登別の軟式野球チームに行くしかない。
- ⑯ 今後団員数が減ると資金の問題も出てくると思う。セ

レクシオンで選ばれた団員が全国大会に参加する際等の補助金申請を簡略化してほしい。以前、大会に参加しているのに、基準を満たしていないということで補助金をもらえなかったことがあった。

【白老町剣道スポーツ少年団】

(剣士6名 新年度は、小学生2名中学生2名の計4名)

・活動状況

練習日：週3回 火木曜日 18時～20時30分

土曜日 13時～15時

(大会がない土日は練成会等にも参加)

練習場所：武道館(空きがあれば別途体育館利用)

団体戦は大体5名のため大きな大会には参加できないが、今年はコロナの影響もあり、団体戦を3名とする特別ルールとなったので全国大会に出場できた。地方の大会には他の少年団と合同で出場している。

月謝は一人500円/月。保険や連盟の会費に充てている。

・課題・要望

- ⑰ 月に2・3回全道各地で大会があり、保護者か指導者が送迎している。練習時の送迎の負担も大きい。
- ⑱ 剣道の防具等を揃えるには費用がかかるため、他のスポーツに比べ選択してもらえない。
- ⑲ 子供も少ないが、指導者の人数も足りていない。現在は一人で指導を続けている。
- ⑳ 大会参加費用は自己負担となり、全道大会や全国大会まで行けても補助金では足りないため、保護者も剣道をやらせることにあまり前向きではない。他の市町村では、補助金が充実していると聞いている。

【Genキングしらおいミニバスケットボールスクール】(少年団員12名 萩野小学校同好会8名)

・活動状況

ほかの競技に比べると競技人口の割合は多い状況。指導者は5名(監督は男女兼任で1名。コーチ各2名)いる。男女

それぞれで練習を行っていたが、昨年から競技の普及も兼ねて町総合体育館、白老小学校と萩野小学校の体育館で合同練習を行っている。その効果なのか、萩野小学校の生徒が増えてきている。

『課題・要望』

- ⑳ 竹浦や虎杖浜にもバスケットに限らずほかのスポーツでもやりたい子はいるはずなので、練習に参加しやすい環境（送迎等に関して）を作ってあげる必要があると思う。子供にスポーツをやらせてあげたいが、共働きで難しいという家庭も多いので行政の協力も必要だと思う。体育協会にいつも停まっているバスがあるので、何とかそれらを利用して練習場所までの起こりさえしてもらえれば、働いていてもお迎えはできると思うので、練習に参加できる子も増えるのではないだろうか。
- ㉑ バドミントンや柔道、ダンス等をしている子供たちもいる。スポーツをやりたい子供は多くいると思うので、いかに環境をつくってあげられるかが大切。

・後援会の方々からの課題要望等

【Shiraoi Football Club】

- ㉒ 小学校の休み時間等でサッカーをやるくらいサッカーを好きな子がたくさんいるのに、団員が集まらないのが現状。体験に何度か来てくれたサッカーが大好きな子がいたが、保護者が送迎をできないので入団させられないと断られたことがある。現在の団員の親にも、送迎のことがあり生活を考えて働き方を変えたいが変えられないでいる方もいる。そんな中で、グルポンバス等を活用して保護者の送迎の負担を軽減することができれば、白老町内の各スポーツの活性化にもつながるのではないかと思っている。
- ㉓ スポーツをやらせたい保護者やスポーツをやりたい子供は、多くいるはず。「だけど」やらせてあげられない。その「だけど」がわからないと少年団側としても対処の方法がわからない。なので、その理由をアンケート

などで分かるようにしてほしい。その理由がわかれば、少年団としてもやらせてあげられないことへの対応をすることができるのではないだろうか。

・地域おこし協力隊 小箱隊員

サフィルバとしては、白老町の子供たちがいろんなスポーツを体験できるようにしたいという思いで活動をしている。そこから、現在活動されている各団体に繋げさせてもらってスポーツの町白老の発展のために協力させてもらいたいと考えている。

サフィルバの活動方針としては、いろんなスポーツを体験してもらってそこからサフィルバの団員として活動してもらおうということではなく、今ある各少年団での活動につなげてほしいという思いで活動している。

初めから少年団に入るのは、送迎等の一定の障壁があるためサフィルバの活動からスタートして、各スポーツの良さに触れてもらって少年団としての活動につなげてほしいと考えている。そのため、各スポーツ少年団の皆さんにもご協力いただいてスポーツを楽しむという素晴らしさを伝えていけるようにしていきたいと考えている。

人口が少なくなっている現状を踏まえて、少しでも白老町の子供たちにいろいろなスポーツを体験してもらい、白老町のスポーツ振興につなげていきたいという思いがある。

白老町では、会場費等の減免もあると聞いているので札幌のような会費を集めなくても子供たちにスポーツに触れてもらうことはできるようになると考えている。

ただ、スポーツにお金をかけていくことも行う必要があるととらえていて、少年団はボランティアが基本だと思うがせめて移動費のガソリン代とかだけでも、白老町からの協力も含め少年団としても検討することが今後に向けて大事かと思う。

【まとめ】

今回は、町内の6団体の関係者の方々からお話を

お伺いすることができた。

課題については、共通して子供の人数が少ない。また、少年団によっては指導者の人数も不足している状況である。子供の人数が少ない要因としては、保護者の送迎の負担が大きいと考えられるという声が多かった。送迎の負担解消については、町内循環バスやスクールバスを活用して保護者の負担軽減に繋がられないか？との意見があった。他にも、子供たちがスポーツをやりたくてもできない理由は、存在すると思うためアンケート等を行い問題を把握することが必要である。

設備や練習施設に関する問題もあるとのこと。特にテニスに関しては、町内にコートはあるものの整備が施されていないと体育協会の管理もなっていない。そのため、練習はかろうじて行っても大会を開催することは難しい状況である。野球についても、数年前までは白翔中学校のナイター設備を利用して日没後も練習を行っていたが、現在は老朽化の問題で使用できなくなっている。現在の練習場所である、ふれあい広場では広場内の照明を利用して何とか練習しているが、当然練習用の照明ではないため、明るさが到底足りない。スポーツの町宣言をしているにもかかわらず、練習施設の管理及び整備が不十分で大会の練習がかろうじて行っている状況というのは、問題であるという認識を強く持つ必要がある。管理を行う体育協会についても、体制を改めて精査する必要がある。現在の協会の体制では、町民にとって必要な組織とは思えない。

各少年団からは、費用面での要望が多くあった。スポーツを頑張っている子供が全国大会へ出場しても参加費や交通費の補助がほとんどない。それでは、せっかく頑張っても保護者や少年団の負担が装荷するだけで、町内でスポーツを頑張ろうと思えなくなってしまう。さらには、練習道具についても子供たちから集めた月謝を活用して購入している状況のため、資金不足が常態化している。

中学校では部がなく、取り組んでいたスポーツを町内で続けられない子供が多い。白老町でも部活動の地域移行を進め

	<p>ているが、近隣市町村に比べるとかなり遅れている。子供たちが楽しくスポーツができる環境を整えるためにも、早急に地域移行を進めなくてはならない。</p> <p>白老町はスポーツ都市宣言のまちである。行政として各団体等と協力し、子供から大人までスポーツを楽しめる環境・機会を整えることに加え、設備への投資・管理体制の強化が必要である。</p> <p>また、行政側の協力体制の構築も重要である。</p>
--	--